

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人 神戸市民文化振興財団	
施 設 名	神戸文化ホール	
助成対象活動名	公演事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	17,696	(千円)
公 演 事 業	2,959	(千円)
人材養成事業		(千円)
普及啓発事業	14,737	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	神戸市室内管弦楽団 “CLASSIC PLUS (クラシックプラス)”	平成31年2月16日	【演目】 モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調 K.216 一柳 慧：インタースペース (弦楽オーケストラのための)、汽水域 (フルートと弦楽アンサンブルのための) ベートーヴェン：交響曲 第5番 ハ短調 Op.67「運命」 【主な出演者】 鈴木優人、瀧村依里、エレヌ・ブルゲほか	目標値	584
		神戸文化ホール		実績値	525
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	584
				実績値	525

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オペラde神戸 「ラ・ボエーム」	H31年3月2日・3日	歌劇『ラ・ボエーム』 スタッフ：井上和世（プロデュー ス）、井原広樹（演出）、栗辻聡 （指揮） 出演：並河寿美／平野雅世（ミ ミ）、藤田卓也／松本薫平（ロド ルフォ） ほか	目標値	3,000
		神戸文化ホール 大ホー ル		実績値	2,586
2	神戸文化ホール インリーチ・アウトリー チ	平成31年2月19日	【演目】 オペラ「泣いた赤鬼」ほか 【主な出演者・スタッフ】 井村誠貴、	目標値	4,500
		神戸文化ホール		実績値	2,182
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	7,500
				実績値	4,768

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当財団では、「中期経営計画2021」において、基本理念として自らの社会的役割（使命）を「神戸市民の文化活動の振興に資する事業を行い、もって個性豊かな魅力ある神戸文化の創造に寄与する」こととし、この基本理念と合わせて「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」（以下：劇場法）及びその指針に従って「事業方針」を立てている。

当該「事業方針」では、芸術文化を創造・発信するため、神戸文化ホール付の神戸市室内合奏団と神戸市混声合唱団を中核とし、両楽団の演奏や、他の演奏家とのアンサンブルなど舞台表現の可能性を広げる事業に挑戦するとしており、また芸術文化の普及啓発のため、次代を担う児童生徒等に質の高い芸術文化に触れる機会を設け、文化施設に普段来ることが困難な人に対するアウトリーチ活動にも取り組むとしている。

こうした方針に沿って、平成30年度は神戸市室内合奏団と神戸ゆかりの音楽家によるクラシック音楽を分かりやすく体感していただく公演を企画。

また、地元音楽家や公募で選ばれた市民コーラス等との協働により、市民オペラを制作し、1人でも多くの市民に優れた舞台芸術に間近で触れる機会を提供するとともに、参画による社会参加意識を高め、音楽を通じた地域活性化を図った。

また、芸術文化の普及啓発のため、公開講座や、学校や医療機関等と連携したアウトリーチ演奏や出張レッスンを実施。さらに、商業施設等と連携し、周辺地域の賑わいづくり等にも取り組んだ。いずれも概ね当初の事業計画どおり実施することができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

神戸市では、子どもから大人まで幅広い世代で合唱や吹奏楽が盛んに取り組まれている等、市民の文化に対する意識・関心が高く、神戸文化ホールは市民に対し、質の高い実演芸術の提供、新しい芸術文化の創造・発信、市民が行う文化活動における発表機会の提供、質の向上に資するアドバイス等のニーズに応えることが求められている。あるいは、劇場法及びその指針に基づく社会的要請も存在する。

それらに応えるべく、平成30年度は日本を代表する室内楽団である神戸市室内合奏団と神戸ゆかりの音楽家によるクラシック音楽を分かりやすく体感していただく公演を実施。

また、地元音楽家や公募で選ばれた市民コーラス等との協働により、市民オペラを制作し、1人でも多くの市民に優れた舞台芸術に間近で触れる機会を提供するとともに、参画による社会参加意識を高め、音楽を通じた地域活性化を図った。

また、芸術文化の普及啓発のため、公開講座や、学校や医療機関等と連携したアウトリーチ演奏や出張レッスンを実施。さらに、商業施設等と連携し、周辺地域の賑わいづくり等にも取り組んだ。これら取り組みは、劇場・音楽堂等機能強化推進事業の趣旨にも合致し、助成に値する文化的、社会的意義が継続して認められると考えられる。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

各事業において設定した目標（下記）は概ね達成できたと考えられる。

（事業目標）

- ・クラシックにプラス・アルファの楽しさや新しさを提供すること。
- ・地元商業施設等と連携し周辺地域の活性化とまちの賑わいを創出すること。
- ・市内中高校生へのアウトリーチや出張レッスンを行うなど、未来を担う青少年へのアプローチを積極的に行い、クラシック音楽の普及啓発を図ること。
- ・音楽家が積極的に地域に出向き、音楽の良さを市民に知ってもらうための取組みを広い視野で実行すること。
- ・鑑賞はもとより様々な角度から一人でも多くの市民に対し、海外の優れた舞台芸術に間近で触れる機会を提供するとともに、社会参加意識を高めること。
- ・芸術文化に接する機会が持てない子どもや、心身の病気・障害に苦しむ方等に対し、質の高い芸術に触れ、心身を育む機会を提供すること。等

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

いずれの取組みも、事業期間並びに事業費について、当初計画と実績にわずかな差はあったものの概ね計画通り進めることができた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと認められるか。

神戸文化ホールでは、地域の文化拠点としてホール付の「神戸市室内合奏団」と「神戸市混声合唱団」を中核とし、両楽団の演奏や、他の演奏家とのアンサンブルなど舞台表現の可能性を広げる事業に挑戦し、また芸術文化の普及啓発のため、次代を担う児童生徒等に質の高い芸術文化に触れる機会を設け、さらに文化施設に普段来ることが困難な人に対するアウトリーチ活動にも取り組んでいる。

平成30は、神戸市室内合奏団と神戸ゆかりの音楽家によるクラシック音楽を分かりやすく体感していたく公演を実施。

また、地元音楽家や公募で選ばれた市民コーラス等との協働により、市民オペラを制作し、1人でも多くの市民に優れた舞台芸術に間近で触れる機会を提供するとともに、参画による社会参加意識を高め、音楽を通じた地域活性化を図った。

また、芸術文化の普及啓発のため、公開講座や、学校や医療機関等と連携したアウトリーチ演奏や出張レッスンを実施。さらに、商業施設等と連携し、周辺地域の賑わいづくり等にも取り組んだ。いずれも地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する事業であったと考えられる。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

神戸文化ホールでは、芸術文化を創造・発信するため、神戸文化ホール付の神戸市室内合奏団と神戸市混声合唱団を中核とし、両楽団の演奏や、他の演奏家とのアンサンブルなど舞台表現の可能性を広げる事業に挑戦し、芸術文化の普及啓発のため、次代を担う児童生徒等に質の高い芸術文化に触れる機会を設け、さらに文化施設に普段来ることが困難な人に対するアウトリーチ活動にも取り組んでいる。

こうした方針に沿って、平成30年度は神戸市室内合奏団と神戸ゆかりの音楽家によるクラシック音楽を分かりやすく体感していただく公演を企画。

また、地元音楽家や公募で選ばれた市民コーラス等との協働により、市民オペラを制作し、1人でも多くの市民に優れた舞台芸術に間近で触れる機会を提供するとともに、参画による社会参加意識を高め、音楽を通じた地域活性化を図った。

また、芸術文化の普及啓発のため、公開講座や、学校や医療機関等と連携したアウトリーチ演奏や出張レッスンを実施。さらに、商業施設等と連携し、周辺地域の賑わいづくり等にも取り組んだ。いずれも地域の実演芸術の振興、文化芸術の発展につながったと考えられる。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

神戸文化ホールでは、芸術文化を創造・発信するため、ホール付の神戸市室内合奏団と神戸市混声合唱団を中核とし、両楽団の演奏や、他の演奏家とのアンサンブルなど舞台表現の可能性を広げる事業に挑戦し、継続的に幅広いファン層の獲得を図っている。

また芸術文化の普及啓発事業として、次代を担う児童生徒等に質の高い芸術文化に触れる機会を設け、さらに文化施設に普段来ることが困難な人に対するアウトリーチ活動にも取り組むことで、将来の鑑賞者を育て、長期的な基盤づくりを目指している。

こうした方針に沿って、平成30年度は神戸市室内合奏団と神戸ゆかりの音楽家によるクラシック音楽を分かりやすく体感していただく公演を企画。

また、地元音楽家や公募で選ばれた市民コーラス等との協働により、市民オペラを制作し、1人でも多くの市民に優れた舞台芸術に間近で触れる機会を提供するとともに、共同意識や自己実現感の高まりを図った。

また、芸術文化の普及啓発のため、公開講座や、学校や医療機関等と連携したアウトリーチ演奏や出張レッスンを実施。さらに、商業施設等と連携し、周辺地域の賑わいづくり等にも取り組んだ。これらの取り組みを通じて、組織活動が持続的に発展したと考えられる。